

# 大盛堂書店 2F通信 Vol.60

2か月ぶりのごぶさたである本号ですが、例の対談の最終回です。Webサイト「版元ドットコム」内「本屋のフリペ」にあるバックナンバーと引き合わせをお読み下さい。(4本)

渋谷区宇田川町22-1

TEL 03-5784-4900

## 対 談

「背伸びし続ける覚悟。進駢堂中久喜  
本店鈴木店長とミシマ社渡辺さんに話  
を聞いた。⑥」



### 鈴木毅さんプロフィール

進駢堂中久喜本店・店長。POPを多用した書籍・文房具の店頭での独自の展開は、広く書店出版業界に刺激を与え続けている。また、玄人はだしのイラストや、「WEB本の雑誌」などに書かれている書評の質の高さも見逃すことはできない。「読書は外文、映画は洋画、釣りは洋式毛バリの海外かぶれ。世間が振り向かないものを専門にして生き残りをかけるニッチ至上主義者。洋式毛バリ釣りの専門誌「月刊FlyFisher」(つり人社)にてなぜか本と映画のコラムを連載しています。」(WEB本の雑誌「横丁カフェ」プロフィールより転載)



### 渡辺さんプロフィール

出版社・ミシマ社営業チームリーダー。社是である「じみちに」

をモットーに、日々書店での営業を続け、書店員からカルトな人気を博す。もちろん鈴木さんとは昵懇の仲であり、昨年秋に発売された全国の書店を紹介した書籍「本屋へ行こう!!」(洋泉社)では、渡辺さん記事による進駢堂中久喜本店紹介記事が掲載されている。特技はビートたけしのモノマネをしている松村邦洋のモノマネ。

(イラスト3点・鈴木毅さん画)



\*37 小山市の人口→男 84023人 女 82339人 計166362人 世帯数: 68785戸 (平成28年4月1日現在 出典: 栃木県小山市ホームページ)



\*38 以前「ミシマガジン」でも書かせてもらったけど、鈴木店長は、「本屋さん発」の第9回に寄稿している。  
<http://www.mishimaga.com/hon-hatsu/009.html>



\*39 僕にとって本を買うのは身体の一部になっているんですね。信頼できるお店でレジ打ちをしてもらう。大切な人生の一部ですよ。→出版営業におけるレジ打ちストーリーとそれにまつわる喜び、あるいはロマンについては、それを実践されている、愛と涙の営業マンこと、朝日出版社の橋本さんにじっくりお話しをお伺いしたいと思っている。



朝日出版社・橋本さんに関しては、当フリペvol48、49をご参照頂きたい。(版元ドットコムWEBサイト内「本屋のフリペ」にて閲覧可できます)



\*40 10B→ミツビシ鉛筆のHi-uni (ハイユニ) と呼ばれる高級鉛筆。当初10Bは埼玉だけの限定販売であったが、現在は全国で販売している。なぜ埼玉だけの販売だったかという、全国で埼玉の小学校だけ硬筆書写の授業があったから。





\*41 そっちかよ→ 渡辺さんの的には当然、1982年新日本プロレスに所属していた長州力が藤波辰爾に放った「かませ犬発言」で返してくると思ったそうだが、映画好きな鈴木さんはロッキーで返してきたため「そっちかよ。調子狂いましたよ。」とのこと。また、渡辺さんに「この業界でかつての長州・藤波的な関係があるとしたら、何か例えはありますか?」と質問したところ、あまりにも具体的なことを挙げてきたため本稿には掲載できず。興味のある方は、直接渡辺さんに聞いてみてください。





\*42 街場→ミシマ社でも著書があり、神戸市で武道と哲学


のための学塾「凱風館」を主宰している哲学研究者・コラムニスト内田樹氏の著書の題名でも多く使われている。


 \*43 さわや書店フェザン店→岩手県盛岡市の盛岡駅ビル・フェザン1Fにある書店。田口店長を筆頭としたスタッフの仕事や売り場の展開は、地元の方のみならず全国の書店出版関係者の耳目を集めている。

 \*44 本屋title→書店チェーン リプロに勤務していた辻山氏が退職後、今年1月に東京・荻窪に開店した書店。最寄駅の中央線・西荻窪駅から少し離れている立地ながらも、辻山氏の選書を求めて遠方からの来客も数多くあるが、地元の本屋としても認知されている。店舗の2階で開催される展覧会やトークイベントなども注目。


 \*45 SPI→SPI総合検査。各企業の就職試験広く用いられている。書店では、就職系の書籍において一番販売されているジャンル。

 \*47 なるほど、百姓の湖ですね→先般飛び出したポケッツコミ「白鳥の湖かよ」にかかっている。念のため。

 \*48 プロフィールにあるように、渡辺さんの特技はビートたけしのモノマネをする松村邦洋のモノマネ。

 \*49 渡辺さんのこのモノマネは、大勢が集まった飲み会では必ず披露される恒例行事。これが飛び出すと吉兆の証であり、その会は成功裡のうちに終了することが約束される。

## \*46に関するコラム

 進駈堂中久喜本店 鈴木毅

十数年前、バイクにキャンプ道具積んで独りで北海道ツーリングに行ったんですよ。バイクのキャンプツーリングはパーベキューとかしないのです、疲れてるし、めんどくさいし、そもそもキャンプ中に食事すらない。余計な道具なんて持てないから。ご飯は到着前に済ましちゃうからキャンプ場ではなにもやることなくて。で、なにをやるかといったら本読むしかなくて、吉村昭の文庫をもっていった。『赤い人』と『破獄』と『羆嵐』。キャンプ場に熊注意ってかいてる看板あったり、ほかのキャンプ場でテントだけ発見されて行方不明なんてこと聞いているから『羆嵐』はホント怖くて、糠平ってところのキャンプ場についたとき

は客が僕独りで、管理人も夕方に様子だけ見に来て帰っちゃうんです。そこで読んだ『羆嵐』が、もう、リアル羆嵐なわけですよ。周りにだれもいないで、さすがのモンベルのムーンライト（※アウトドアカーマンベルが発売した月の明かりでも設営できると謳い文句のテントのベストセラーモデル）でも羆は防げないですから、ラジオを大音量で流すしかない。しかもトイレがですね、200mくらい山の奥のほうの窪地に若干下っていくんですよ、そこはもう、闇。真っ暗。それまで幽霊とか怖いと思ってけど、獣のほう怖くなって初めて気付いたですよ。命失いますから獣は。ほんとマジで。

そういえばなんで命の危険を冒してキャンプ場のトイレに律儀に行ったんでしょうね？僕独りしかないのに。で、寝ようとテントに入ってるの外でカサカサって草の擦れる音がするわけですよ。怖くて眠れないから『羆嵐』読むしかなくて、結局明け方近くでようやく寝ました。ラジオつけっぱなしで。『赤い人』って北海道の開拓工事や国が囚人にやらせた話で、囚人服が赤いので「赤い人」なんだけど、囚人と北海道といえば網走刑務所ですよ。網走番外地の『破獄』も脱獄の天才が網走刑務所から脱獄するんですけど、北海道ツーリング中にそんな話読んでたら、北海道の開拓の歴史とか興味わいてくるじゃないですか？やっぱり。で、山川出版の歴史散歩シリーズを読みたくなくて、ちょうど道東に来てたので釧路市内の書店行ったら売ってないんですよ。『北海道歴史散歩』が。その日は釧路のキャンプ中で一泊して、翌日中標津に立ち寄ったら、市内の本屋さんにも、「歴史散歩」が置いてない。で、結局、中標津のバイパスにできたショッピングセンター内のある書店さんによろしく置いてあって買ったんですけど。『歴史散歩』買うのに200km以上走ったわけなんだけど、何件か立ち寄ったいかにも町の本屋って感じのところで気付いたのは、そこに『歴史散歩』はなかったんだけど、どこの本屋にも畜産というコーナーがあるわけですよ。必ず。道東は牧場ばかりですからね。地元ニーズってこういうことってその時気づいたんですよ。すずきたけし三十歳の時です。はい。考えてみたら歴史散歩なんて観光客か、本州から来た人だけですよ。欲しいと思うのは。けど、畜産関係の本は、もう多くの方がその場所が必要とするから畜産のコーナーがあるんだなと。だから帰ってからウチにも農業書コーナー作りましたよ。畜産は少ないけど農家はたくさんありますから。それまで園芸とか趣味としてのコーナーはあったけど、農家みたいなプロフェッショナル向けの本はありませんでしたからね。

.....  
全6回の怒濤の鼎談を読まれた皆さまにとって、進駈堂・鈴木店長とミシマ社・渡辺さんはかけがえのない方になったのではないのでしょうか？ぜひ今後ともお二人に注目を!!